

めんがめ倶楽部 (三次市作木町)

◆めんがめ倶楽部の紹介

三次市作木町の自然環境資源を見直し、地域の振興を図ることを目的に、2005（平成17）年8月に結成した任意団体で、7名の会員で活動を行っている。

主な活動は、環境省レッドデータブックで絶滅危惧ⅠB類に選定されている夏鳥ブッポウソウの保護活動と都市住民との交流を目的とした市民農園を行っている。

特に、ブッポウソウの保護活動は2006（平成18）年から行っており、現在、作木町は国内有数の営巣地となっている。



◆ブッポウソウの保護活動

1 ブッポウソウ

体長約30cm 翼開長約60cm ハトより少し小さく翼は長くてしなやか。赤い嘴と足を持ち、太陽の光が当たると瑠璃色に輝き、「森の宝石」、「幸せの青い鳥」とも呼ばれる。日本には5月初めに東南アジアから渡ってくる夏鳥。セミ、トンボ、コガネムシなどの大型飛翔性昆虫を空中で捕獲しエサとする。自分では巣を作らず、樹洞、キツキの古巣などを利用し、子育てをする。国内ではおおよそ1,000つがいが増殖しているといわれている。



2 主な保護活動

- ① 巣箱作り
杉板で製作し、巣穴の大きさは8cm。
- ② 巣箱架けと管理
許可を得て作木町内150箇所の電柱などに巣箱を架設。巣箱は7年程度で交換。
- ③ 営巣調査
架設した巣箱での営巣状況を毎年調査
2022年 作木町内で123箇所営巣



3 活動の成果

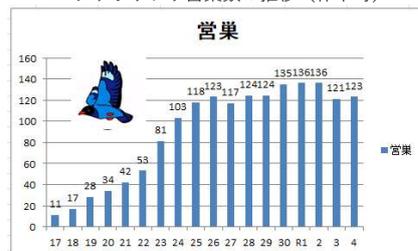
- ・国内有数の営巣地となっており、2012年、NHK総合「ダーウィンが来た」で放送される。
- ・2014年に三次市の鳥に追加指定される。
- ・「訪れるべき探鳥地100」（BIRDER2022）に選定される。

4 課題

今後も継続的に保護活動を行っていくために、ブッポウソウの生態や地域の自然環境を理解し、適正な保護活動を行える人材を継続的に育成し、組織的に活動していくことが必要である。



ブッポウソウ営巣数の推移（作木町）



◆ブッポウソウ保護活動ボランティアの育成

1 ブッポウソウについて学ぼう（主に三次市立作木小学校との連携）

- ① 生態、保護活動について学習
- ② 巣箱作り
古くなって交換する新たな巣箱を製作
- ③ ブッポウソウがエサとしている生き物調査（川の生き物観察会）
地域を流れる川に入って、トンボの幼虫ヤゴなどを観察

2 実施の効果

- ・ブッポウソウをととして地域の自然環境について学習
- ・三次市立作木小学校のふるさと学習と連携

3 今後の展開

- ・持続的な保護活動
- ・人工巣箱に頼らず自然木に営巣するような豊かな里山環境の整備



ブッポウソウの里・三次市作木町